

大阪大谷大学地域連携センター設置記念講演会 開催報告

地域・大学連携のこれまでとこれから
— 地域にねがす大学としての地域貢献を展望する —

2024.2.3 大阪大谷大学 カトレアホール、13:30～16:30(13:00 開場)

後援:富田林市、独立行政法人都市再生機構

■ 講演会開催の趣旨

本学は、「2025 年の大阪大谷大学像」を実現するための基本方針を定め、「アクションプラン」を作成し、よりよい大学のあり方を追求しています。その一環として、2022 年、大阪大谷大学地域連携センターを発足させました。2023 年には、事務局体制の整備も行われました。このことを広く地域の皆様にご周知すると共に、昨今、地域・大学連携は、どのような取組が行われているのか、その成果と制約とは何か、何をを目指すのか。地域連携センター設置を記念した今回の講演会では、「ニュータウンの活性化」と「教育」を取り上げ、地域・大学連携の振り返りと今後を展望する機会としました。

無関心じゃられない私になる
大阪大谷大学

大阪大谷大学 地域連携センター設置記念講演会

地域・大学連携のこれまでとこれから
— 地域にねがす大学としての地域貢献を展望する —

2024年2月3日(土)
13:30～16:30 (開場13:00) (2会場)

大阪大谷大学 カトレアホール(2号館2階)

後援:富田林市、独立行政法人都市再生機構

講演会プログラム

13:30～14:00 開会式(司会:浅尾広良学長)

14:00～14:30 第1部 講演「ニュータウンの活性化」(講師:江川直樹氏)

14:30～15:00 第2部 講演「教育」(講師:小嶋清樹氏)

15:00～15:30 第3部 講演「地域連携」(講師:江川直樹氏)

15:30～16:00 第4部 講演「未来」(講師:小嶋清樹氏)

16:00～16:30 閉会式(司会:浅尾広良学長)

主催:大阪大谷大学 後援:富田林市、独立行政法人都市再生機構

大阪大谷大学 地域連携センター設置記念講演会 【2号館2階】

地域・大学連携のこれまでとこれから
— 地域にねがす大学としての地域貢献を展望する —

2024年2月3日(土) 13:00～16:30 (開場13:00) 入場無料

大阪大谷大学 カトレアホール(2号館2階) 1号館から直進した右、右手第2号館2階にお越しください。

第1部 講演

講演:「ニュータウンの活性化」(講師:江川直樹氏)

第2部 講演

講演:「教育」(講師:小嶋清樹氏)

第3部 講演

講演:「地域連携」(講師:江川直樹氏)

第4部 講演

講演:「未来」(講師:小嶋清樹氏)

主催:大阪大谷大学 後援:富田林市、独立行政法人都市再生機構

大阪大谷大学地域連携センター設置記念講演会を2024年2月3日(土)13時30分から16時30分まで、本学カトレアホールにて開催しました。本学が所在する富田林市をはじめ、河内長野市、羽曳野市、千早赤阪村等の近隣自治体の皆様、地域活動にご尽力されている地域の皆様や企業から、本学教職員・学生、登壇各位を含め、総勢約80名のご参加をいただきました。また、本講演会の開催にあたりご周知に奔走いただいた皆様、ご後援をいただいた富田林市、UR都市再生機構の皆様に、厚く御礼を申し上げます。

開催報告

■ 開会の辞

冒頭、本学 浅尾広良学長より、開会の挨拶を致しました。その後、今井澄子文学部教授・歴史文化学科長の総合司会のもと、講演会が進行されました。



■第1部 基調講演 講師：江川 直樹氏 「集まって住む環境のデザインと大学連携地域再編プロジェクト」



江川氏は、関西大学教授（現在は名誉教授）・建築家として、数々の競争的資金を獲得され、京都府最大のUR団地（八幡市男山地区）や、本学近隣のUR団地（河内長野市南花台地区）においても活性化に取り組んでこられました。今回の講演では、数多く集住環境のデザインを手掛けてこられた氏の建築観や大学連携地域再編について、我々が空気感といったものも理解しやすいよう、スライドを交えて、お話をしました。

「集まって住む環境のデザインと大学連携地域再編プロジェクト」と題したご講演では、4つの大学連携地域再編プロジェクトの事例が数多くの写真とともに紹介されました。それらは、卒業生有志による法人の立ち上げ等を含め、場所や条件の異なる様々な地域での事例を含むものでした。文科省の補助金事業終了後も、様々な活動を継続されていますが、まずはやってみて、検証し、改善しながら継続しているとの説明がありました。大学連携地域再編は、どのプロジェクトも「場所の声を聞く」という姿勢が大切で、重要な「あいだ」の有り様が、意味のあるものになっているかどうかを感じるのが肝要であるといった、まちづくりに取り組む者すべてにとって示唆に富む数多くのメッセージをいただきました。



江川直樹（えがわ・なおき）氏

早稲田大学大学院修士課程修了。1977～82年現代計画研究所（東京）、1982年同大阪事務所開設、2004～21年関西大学建築学科教授。2018年関西大学名誉教授。2022年関西大学社会連携部顧問。日本都市計画学会賞（計画・設計賞）、都市住宅学会賞、日本建築士会連合会賞（作品賞）、地域住宅計画賞、関西まちづくり賞、土木学会デザイン賞、日本建築家協会優秀建築選、他多数。2018年文部科学大臣表彰科学技術賞。



■第2部 講演 講師：小田 浩伸 大阪大谷大学教育学部教授・学部長 「大阪大谷大学による「教育」分野の地域貢献—その軌跡と意義に関する考察—」



小田教授 プロフィール

<https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/teacher/education/odah.html>



第2部の講演では、教育学部学部長 小田教授から、本学の教育分野における社会貢献について、講演がありました。

本学は、昭和41(1966)年に前身である大谷女子大学として開学、以降、建学の精神「報恩感謝」にもとづく人間教育を基盤として、女性が社会で活躍し得る指導的女性の育成を行ってきました。殊に、本学は、昭和45(1970)年、文学部に幼児教育学科を増設し、以降、多くの教員等(特に、小学校・幼稚園教諭、保育士)を輩出してきた大学であることも、特色のひとつと言えます。多くの教育現場で、本学の卒業生が、活躍しています。

一方、大学の現場では、今、どういういった教育の実践や研究活動が展開されているのか。今講演会のテーマに沿い、大学の枠に留まらない、【地域貢献】というキーワードから、考察されました。

■紹介された取組の主なもの

- ・教育相談・発達相談
- ・教員研修(支援教育・授業づくり・障がい理解)、学校支援(授業改善・教員研修・巡回相談)
- ・保護者・市民への研修(人権研修・障がい理解啓発)
- ・【大阪大谷大学特別支援教育実践研究センター】による展開(平成26年4月から、教育・医学・心理の専門性を有する専任教員を中心に特別支援教育に関する研究・研修・相談の地域情報発信基地として、学内に設置)
- ・「小中学校、高等学校、支援学校 特別支援教育コーディネーターアドバンス研修」大阪大谷大学と大阪府教育庁との連携研修(平成19年から現在まで17年間継続)
- ・発達支援教室「きらり教室」の実践(授業の一環として実施。特別支援教育専攻を担当する教員が専門性を活かして実践)

各取組の詳細は、是非、本学教育学部のホームページをご参照ください。 <https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/education/>

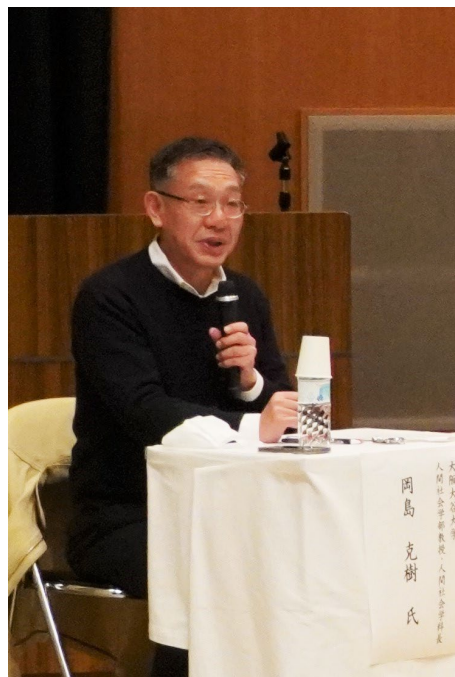
大阪大谷大学特別支援教育実践研究センター https://www.osaka-ohtani.ac.jp/facilities/educational_research_center/

教育学部の強み、教員の専門性を活かし、教育委員会、学校、研究会等との連携のもと、地域連携に大きく関わり、日々実践されていることがわかります。教育連携に関わる保護者・教育委員会の方々からも、様々な事例と共に、取組の成果が報告されました。

「教育」における地域貢献の意義とは、何なのか。小田教授は、多様なニーズのある子どもの複合化した現状、地域の中で安心して生活できるために、「地域連携」は欠かすことはできず、「教育」分野における実践のフィールドそのものと、説明されました。

■ 第3部 座談会 テーマ：「地域・大学連携のこれまでとこれから
ー 地域にねざす大学としての地域貢献を展望する ー」

パネリスト：江川直樹氏（前掲）／小田浩伸（前掲）
塚本隆之氏 富田林市産業まちづくり部金剛地区再生室 室長
寺田美哉子氏 NPO法人きんきうえぶ理事長
大阪大谷大学 卒業生・在学生 （地域連携活動に活躍）
ファシリテーター：岡島克樹 大阪大谷大学人間社会学部教授・人間社会学科長



岡島教授プロフィール

https://www.osaka-ohf.ac.jp/departments/teacher/human_societies/okajimk.html



第1部と第2部の講演会では、お二人の先生方から、地域・大学連携について、その概要や理念、成果、課題についてご講演をいただきました。この座談会では、同じ「地域と大学の連携」をテーマに、行政、市民団体、卒業生、在学生という、さらに多様な視点から、地域での活動とその成果・課題を語ってもらいました。

富田林市金剛地区再生室長 塚本氏は、氏が担われている「金剛地区」の再生・活性化のミッションについて、パワーポイントを用いて、分かりやすく説明をくださいました。行政だけでは「まちの課題」解決は困難であり、大学との連携は重要と説明がありました。NPO法人きんきうえぶ理事長 寺田氏からは、市民活動支えてこられた実績と、本学との連携事例を紹介くださいました。また、学生が、地域活動を経験することの効果も語られました。在学生からは、本学の地域連携の課題として、「地域ボランティアの紹介が少ない」「もっと沢山の案内があれば、学生はより多くの活動に参加できるだろう」という意見が出されました。「活動の成果や意義をしっかりと提示し、学生に有効な広報をするべき」との提案もなされました。江川氏からは「そもそも「学生の地域活動」というものは、その成果を示され大学から与えられて行うものではない。目的など見えずとも、仲間と何かしら面白がってやっているうちに成果として表出するもの。自発的にやらないと、楽しくないし、継続しない」、小田教授からは「教育学部など、資格をとらなければならない学部の学生は、ボランティアを継続して取り組む時間確保が難しい」といったコメントが出されました。卒業生からは、「異なる領域のゼミとのコラボや他大学との協働もあって良いのでは」という提案が出されました。

■質疑応答

座談会終了後、短い時間ではありましたが、質疑応答の時間を設けました。ご参加者様から、地域と本学とのボランティア活動は、これまでも長い間、確実に続いてきた旨の発言を、いただきました。有難うございました。

■閉会の辞

質疑応答の後、本学地域連携センター長 富田晃司 副学長・薬学部教授から、閉会の辞が述べられました。



無関心じゃられない **私になる**
大阪大谷大学